

## 国際化学肥料ニュース (2012年9月)

### 肥料業界の2012年9月動態

- \* アメリカ肥料研究所 (TFI) は7月末現在の北米塩化加里在庫量を公表した。7月末現在の在庫量が256.5万トン (K<sub>2</sub>O換算では171万トン)、7月の塩化加里生産量95万トン、前月より40%減、消費量94.6万トン、前月より14%減。また、速報では8月末の塩化加里在庫量が235万トン (K<sub>2</sub>O換算では158.2万トン)、先月末より9%減の3ヶ月連続減少した。
- \* スイスのAMD社は傘下の子会社Toepfer国際の化学肥料業務を統合する。現在AMDはToepfer国際の80%株式を有するが、統合後、Toepfer国際がアイルランド、イギリス、スペイン、オーストラリア諸国に展開しているRafael Karczewski Maiké GrensemannとJan Philip Fiedler等の化学肥料商標にAMDの名前が付くほか、AMDがインドとパキスタンに行っている肥料事業の業務を代行する予定。
- \* 10月9～11日、イギリスのCRUコンサルタント社がマレーシアのクアラルンプールにアジア窒素肥料と天然ガス会議を開催する。主な議題はアジア市場の尿素生産の発展と需要の動向、未来数年間市場の予測、市場影響要因等である。特に中国輸出関税の強化、中東地域の生産と輸出能力の急増、ベトナムが輸入国から輸出国への変化、イランの低価格販売攻勢、インドの中東合弁協力の強化等の発表と論議に注目を集めそう。
- \* 中東湾岸石油化学協会 (GPCA) は、2016年までに湾岸国家協力委員会 (GCC) に加盟した国と地域が化学肥料生産分野に180～200億ドルを投資し、2016年の化学肥料生産量が3200万トンに達し、年平均成長速度7.5%、2016年にGCC地域の化学肥料生産量が世界シェアの16%、尿素輸出量が世界貿易量の36%、りん安の輸出量が世界貿易量の24%と予測する報告を発表した。ただし、世界的金融不安及びアラビア諸国の政治不安定がその成長に影響する要因にもなる。なお、公式の統計では、2011年、GCC地域の化学肥料生産量が2100万トン。
- \* カナダPotash Corpは加里肥料需要の低落に対応するため、9月15～10月13日に1本の塩化加里生産ラインを停止点検にすると発表した。当該社7月末の塩化加里在庫量が254万トン、この5年間の平均在庫量より30%多い。

- \* 8月、サウジアラビアがインド IPL, Zuari, Tata の3社に10万トン DAP を輸出した。これに伴い、インド RCF 社は中国と締結した4~5万トン DAP の契約を破棄した。また、最近のりん安国際市場価格の下落傾向及びインド国内需要不振により、インドが中国との間に35万トン DAP の輸入意向書をキャンセルする可能性が大きいと関係者が述べた。
- \* インド STC が9月20日に200万トン（プラス100万トンの追加可能量）尿素の入札を行った。入札結果がまだ公開されていないが、中国とイランがその大半を占める観測が出た。最低入札価格 CIF390 ドル/トンであった。

### 大手各社の営業業績

- \* ロシア大手肥料メーカー Phosagro 社が上半期の業績を公表した。上半期に生産ラインの稼働率が100%、MAP、DAP、化成肥料の販売量が210万トン、特に化成肥料が85.7万トンも販売した。売上高504億ルーブル、純利益108億ルーブル。
- \* アメリカりん安大手 MissPhos 社は今年第2四半期の業績を公表した。DAP は販売量16.1万トン、売上高7850万ドル、営業利益200万ドル、純利益85.7万ドル。去年同期は177万ドルの赤字であった。
- \* ベルギーの硫酸系液肥メーカー Tessenderlo 社は今年第2四半期の営業業績を公表した。硫酸加里販売量が下落した原因で、売上高が2.1%減の9760万ユーロ、営業損失が1510万ユーロであった。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* エジプト OCI 社の子会社アメリカアイオワ州化学肥料 (IFCo) は、アメリカアイオワ州 Lee 郡に建設する予定の窒素肥料工場に関する設計・建設業務をすべて OCI 社に一任することを決定した。当該アンモニアと尿素、硝安工場は KBR と Uhde の技術を採用し、完成後、年間150~200万トンのアンモニアと尿素、硝安の生産能力を有する。投資総額14億ドル、2015年に完成する予定。当該工場はアメリカに25年ぶりに新たに建設された天然ガスを原料とする窒素肥料工場である。

- \* アルジェリア政府は 2020 年までに東部の **Tebessa**、**Souk Ahras** と **Skikda** の 3ヶ所に化学肥料工場を建設することを基本決定した。3 工場の総投資額 140 億ドル、生産能力 3500 万トン／年である。2013 年下半期にその建設に関する入札を行う予定であるが、現在、アルジェリア政府がスペインの会社と接触しているとの情報がある。
- \* 8 月 30 日、インドの **Rashtriya** 社は未来 3 年間に 7.19 億ドルを投資し、ムンバイにアンモニアと尿素工場を建設する。アンモニアの生産能力が 2200 トン／日、尿素 3850 トン／日の予定。
- \* オーストラリアの **Elemental Minerals** 社はアフリカコンゴ共和国の **Sintoukola** 加里鉱山の最新探鉱結果を公表した。現在探鉱中の厚さ 4.47m 鉱脈の塩化加里含有量が最高 57.66%に達し、平均含有量が 30.8%、探明された埋蔵量 4.42 億トン、推測追加埋蔵量 3.62 億トン、平均塩化加里含有量 31%
- \* アフリカのナミビア海洋りん鉱石社は、当国の **Sandpiper** りん鉱山探鉱プロジェクトに探明されたりん鉱石埋蔵量 7869 万トン、P2O5 含有量 20.83%、予測埋蔵量 1.3276 億トン、P2O5 含有量 20.41%であることを公表した。4 月にオランダの **Bateman Engineered Technologies** 社が発表した当該プロジェクトの実行可能性調査報告においては、当該鉱山の生産能力がりん鉱石採掘量 300 万トン／年、精製鉱石の P2O5 含有量 27.5~28%、採掘年限 20 年と述べた。**Minemakers** 社と **UCL** 社はそれぞれ当該プロジェクトの 42.5%株式を有し、残りの 15%は **Tunegi** 投資会社が持つ。
- \* カナダ **Arianne Resources** は **Cegertec Worleyparsons** 社に該社の有する **Lac a Paul** りん鉱山の採掘実行可能性研究調査を依頼する契約書を締結した。当該りん鉱山はカナダケベック州 **Saguenay** 北部約 200km にあり、精製したりん鉱石生産量 200 万トン／年、P2O5 含有量 39%と計画している。
- \* 中国の中信建設会社が元請負とするウズベキスタンの **turkmenabat** 塩化加里工場の 1 期工程が竣工し、近日生産開始した。また、2 期工程が詳細設計に入り、基礎工事がすでに着工した。当該塩化加里工場が 1 期工程の生産能力 20 万トン／年、投資額 1.2367 億ドル。2 期工事の設計生産能力 40 万トン／年、2014 年完成予定。
- \* オーストラリア **Potash West** 社は **Dinner Hill** 加里鉱石探鉱プロジェクトの第 1 期報告を公表した。32 ヶ探鉱井戸から加里鉱石が検出され、**K2O** 平均含有量 3.0%以上。ま

た、P2O5成分も検出され、りん鉱石の存在が示唆される。全体の探鉱結果報告は10月に公表される予定。

## その他

- \* イラン「テヘランタイムズ」紙9月9日には、パキスタンがアメリカのイラン制裁に反して、イランとの間に小麦と尿素の物々交換契約を締結したと報道した。その内容はパキスタンがイランに300ドル/トンの価格で小麦100万トンを輸出し、その代金としてイランが輸入時点の国際市場価格（現時点では370ドル/トン）でパキスタンに尿素を輸出する。パキスタンは現在余剰小麦約150万トンの在庫があり、100万トン輸出しても50万トンの備蓄がある。一方、国内農業用尿素の不足量が約90万トンで、外貨不足の政府にとっては、通常の輸入では外貨の支払ができないため、この物々交換契約が成立した。
- \* カナダ Gensource 社は同国の Nexxt 社の買収を完了した。Nexxt 社はサスカチュワン州に数ヶ所の加里鉱山の探鉱権を持つ。具体的買収金額が公表されていない。
- \* アメリカ Agrium 社は Courtright 緩効性肥料生産ラインを永久閉鎖した。当該生産ラインが年間6.8万トン芝生用緩効肥料を生産したが、原料価格の変動、販売量の減少等により、採算が取れないため、閉鎖になった。客先への供給は別の工場で生産する緩効性肥料で代替する。
- \* 9月4日、アメリカ国際貿易委員会（ITC）が公告を出し、ウクライナ原産の農業用硝安ダンピング案について再審を行い、アンチダンピング措置を延長するか否かを決定する。2000年11月アメリカ商業省がウクライナ産硝安についてダンピング調査を行い、2001年7月15日、最終裁定を発表し、ダンピング率156.29%と断定した。その後数回延長し、2012年6月に商業省が当該案件について再審を行うと予告したが、現時点ではアンチダンピング措置の延長を要求するメーカーがなく、撤廃される見通しとなる。
- \* ベトナム新聞によれば、ベトナム南部地域の植物保護センターの主任（責任者）は今年夏秋季節にメコンデルタ地域に大発生したいもち病の原因が液体アミノ酸肥料に関連すると述べた。メコンデルタには調味料のグルタミン酸の発酵廃液を主成分とするもの

で、いもち病を誘発する可能性が大きい。今年夏から秋にかけ、メコンデルタ地域の広範囲にいもち病を発生し、30～50%減収の水田が所々にあるという。